

2025. 3.25 鳥井 直輝さん 聞き取り

(崇仁市常住宅九号棟 → 芝資研に移動)
から

(展示会場にて)

場所: 喫茶店「リノ-サイト」
バ だいたいここ (閉店になり
た 経ひ)

立ちの至 済み、リフォーム 済み。
そのとお金降さの方の店
スリンドグラスの
装飾

京都市の方から話あり。

地域の人々の記憶を呼び起こす鍵

3/15.16 イベント?

・ 崇仁の移転との関わり方

「ものをくわえて開く」 - の変化がある

{ 記録集 } とくくえ
{ 展示空間のもの }

学生時代の鳥井 (の関心・活動から)

↓
崇仁との関わり ~~関係~~

以降の鳥井の展望も見据えた
展示になった

一方

・ ミシン - 譲って頂いた

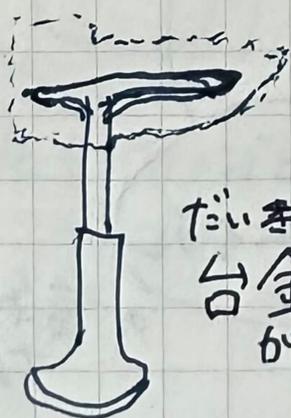
(靴用のミシン) 2023年、活動2年目くらいに譲り受けた。

・ ミシン (持ち主の家で) 関わり中で
・ その他の靴 ~~修理~~ の道具 - だんだん出てきて
譲って使った

靴作りの道具としては1/3もなくなっている

だから、足りないものは自分で調達

それを使って今回は制作

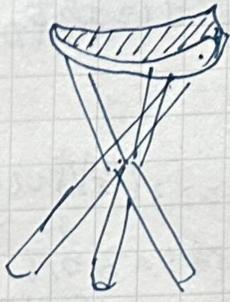


たいね
台金
がね

(B-LABO 外
での個人のプロジェクト)

「革を使、Tシャツ-ワッペン」がはじまり

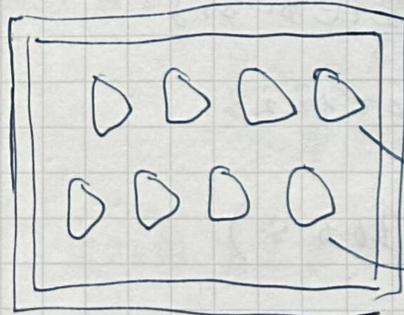
- ・芸大生を知る、知ってもら
- ・地域の方を知る



芸大祭の広報として
両地域に働きかけ
(移転前後の)

ちゅうど祭材を使、て制作してやりまわして
芸祭をきっかけに、土地を知らりつながら、いた

コシンをもちろま、かけに、なった



キクデミイさんと共に
作って

芸祭で販売

キクデさんの好きな色

地域の中に見える色

(展示物のひとつ)

→ B-LABの活動の
一端

- ・ 常にクラフトリー
いほいきセンター

いほいき小さな芸祭の頃に

- ・ NHK - 移転をきっかけに地域と関わる学生たち

とやりあげたい、と言われた。

いほいき芸祭にそととして

そこから3ヶ月取材された。

→ おもしろい経験だった。

エゴサしたの 評価は半々。

そのときの
サムネイル

の番組に
た、た

地域と関わり

「なんで芸大生の(wee)をやるのか、(も、と自由に制作
してよ
とか言われたりもする

制作活動

(批判的に)

→ 自分の承認欲求が地域の活動などの批判に
たがった、たがった

「革」を使、てい、ると言われる(地域や歴史のこと)と
関わり

自分の制作との交差点

→ 考えをきっかけに、なった。2023年冬

デザインをしい子の、
人権活動をしてい子の、 } 2教授に
言われる

- ・ 常にクラフトリー - (ち、ちい草靴を
はんたごうら)

移転をきっかけに常にについてた、た
革を扱う産業についても全然背景を
わかってい、た、た。

自分を入口に地域を知、てい、た、
差別のあ、た、た、地域とた、た、
た、た、た、た、た、た、た、
と、思、た、た、



(展示物のひとつ)
かばん

いほ → く → かばん

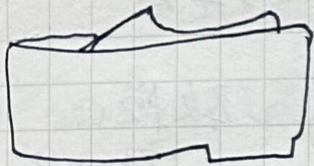
靴の次はかばんかな、と、
それた、た、

地域とかいうより

ものごとく楽しんで制作、た、

ほか: 3-7モトシム
 中心センター - 実行委員
 → 67ばんつくりの好きな方

鳥井: 今アミーの方に67ばんをつくりながら
 (喫茶) ずっと寝られている
 ずっと気がかり



「もしの革靴」
 ウェブサイト(縦画面
 あり)

学食にクラフトツアー SUJIN CRAFT TOUR ウェブサイト
 がある。

ちっちゃい革靴をつくらう
 → をきっかけに地域の方か
 自分の記憶を語り出した。

地域に ~~くっ~~ くっをつくれる職人さんはいらっしゃる
 ついては人の奥をまたはいて、

その方たちが道具や
 素材を頂いたり

地域の中の
 特別な革靴への
 こだわり

これがいもしその子
 産業として残したいと
 して...

終わりにして、
 歴史ではなく
 作品を見て
 前向きに、
 見てみて
 ほしい

という作品の制作
 スペシャラー - 2Dデザイン

「歴史的な再現」はできず → 素材や道具をくみた
 地元のおばあさん
 がいかに
 大切にしている

↓ (理由)
 1人1人の出来事や元で作る

- ツアーでも、たいてい入口、目的なことを
 自分の作品でもできないか
 - ツアー → 地域
 - 作品 → 地域
- つながり

常に、
 「どの話にのっかると一番おもしろいかな
 (就職先でいい)」
 ・ デザインストラグジストになる (日々生かす
 大切な職業)
 インハウスデザイナー - 大阪、枚方
 (製造業の)

今
 家を誰か
 貸して
 くらえ

(芸資研に移動)

B-LABO (かできたきかけ)

プログラムデザイン専攻 - 課題「本音とリサーチ」

京芸にまつわりごとの本音をつくる
 → 移動にひかみしたいと思っ
 前期展に構想を出した。
 → 「1年前から京芸の一部が移動して
 きたような場をつくる」
 → いきいきセンター - ぶらあ、サロ(5階)は
 どういうプロセス、仕組みから地域と開かれるか。

地域の課題をまとめて扱う
芸大生の制作の場 } B-LABO

いきいきセンター ふれあいサロン
再開発で地域の人から減り
使う人・機会がとて減った場所
→ すでに鳥井さんが出入りしていたので
その場所のことを課題に組み入れた

教えるも受ける
移転先の建物は

1回生のときから崇仁に来ていた。(京芸はもうたいぶ
井上先生主導のデザイン授業 頃

2022.11. B-LABO としてのはじめの活動
ふれあいサロン「草のいすをみんなで作る」
いきいきセンターのコミュニティの人々が集まってる
フタがわり

いす → 吉田さんの提案
崇仁の地域の方。高齢で歩くのが
スーパ-などに行く途中に座ったりできる
持ち運んで

2022.12.8
京都新聞夕刊 (芸祭の1ヶ月後)
芸祭と並行して、実は芸祭はあまり活動して
なかった?
ほか: 活動してたよ。(ぼろぼろになっただよ(笑))
鳥井: 崇仁に週一で来てる人が芸祭から離れられた
時間になっただよ。

新聞に載る - 自分の顔が自販機から出てる
自己顕示欲が強いので普通に
うれしかった

→ この当時はなぜこんなに
取り上げられるか (大人の思惑は) よくわかっていなかった

2023.2 制作展
またくちかう作品を作った。

→ 先生方は「地域のこと以外の制作を」
→ いきいきセンターから といわれる
吉田さんから 離れた。

その後

いきいきセンターに
「大量の草が届いている」と連絡が来た

→ ミシンがあた → 一緒にくれたおに会いに行こう
埋もれていた台金 サイダさん
も発見 (あつたさん: あげむち)

B-LABO → テーマ演習化
人が集まり、これだけ人が集まれば
いろいろなことかできるのでは、とや。た

2023.8
第1期プロジェクト

第2期とかはいい。(加路: 一たあ、たよ)
鳥井:

移転先ツアー

ミシン体験
→ 実際、にどのように使われているのか見せてもらう
くすあが義肢さん - 現役で使われている場所

・いすー売りさばいた

・メンバーそれぞれの専攻や興味で
地域と関わり制作

・いきいきちいさな芸術祭 (10月) 2023

・芸大祭・京都駅ビル芸術祭 (11月) 2023

・制作展 (翌2月) 2024

芸大の土地ではない立場

加藤さん
実行委員長

B-LABO
の
発表会
的な。

・すくすくセンターと一緒に

・革小物の販売
頂いた素材づくり

・地域の素材で革靴のリメイク
(鳥井)

「ただ移動するということ

でなく地域の人たちとどう関わりか
を考えるきっかけとした」 (と西田さん
と西田さん)

いきいきセンターが主導してくれているから

大学は一切関わらず

学生主体でつくったイベント

→ 場所の許可とりも警察へ

「ごまえやさん、前さんの活動

→ 今も鳥井くんがいて、いる

イベント中に

・ハチミツン - 電気のいらない足踏みミシン

→ ストリートに出してみた

パフォーマンス

いろんな場所で行った

→ 人がたくさんいるところを

ミシンを移動させた (という欲求)

→ ミシン屋 (高店街)

まで持ってきてミシンを移動

また「ミシンの
使い方を
よくわかりきって
いなくなった
のもあり

靴をつくるという行為
ミシンを介して人と関わる
をしていて

2023.11 駅ビル芸術祭

同じく出店

西田
トホシ
さん

革製品をつくるのが好き、うまい、でも話した以前に
出たことない

→ 鳥井くんが組んで販売

→ 京都で木工の職人へ

これ以降、とにかくあちこちに行き、自分たちの活動を

NHKの放映などもあり

ためた。と
な。ていた

「わいとキーパーソン。(なに)

救いそびれている」

(~~西田さん~~)

→ (隠)れ、たんに、そのように思っている人
の中 (いるらしい)

NHKの映像見るとかっこよく
(映、た人を見て)

大分の「ザイ」の方

「でもその地域を変えよう
何か成し上げよう」

「お前の子のおこがましい」

「集まる場、話せる場をつくらせり
できるだけでいい」と言われた

「住んでみる、当事者になる
のが重要」と言われたり

卒業後、どう地域に関わっていくのかを考える

→ 2024年の島井さん

~~島井さん~~ 急に地域の人から

「すじカレー - 糸巻につきたい」

と連絡が来た

この地域ですじを扱うならここ
と教えてもらったり

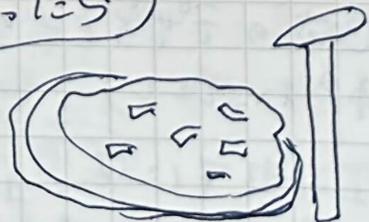
革の延長にある すじ、ホルモン

さいたさん (上の一週間後くらい)

「韓国風のホットケーキを作りたい」

→ チヂミだった (すじが入ってる)

甘いのかと思ったり



チヂミの
とすじは
靴のインソール
が置かれる

「地域の共通言語としての靴づくり」

2024年夏に思っていたこと

江か: まだ終わってない... ということ
大学というよりフィールドで学んでいる

島井: 大学では締め切りを守ることを学んだ
つくりことは外で
革靴づくりも含め

FAB CAPE で 革のレーザーカットをしたら

江か: 大学ではないんだ

島井: 大学では遅い

いづみさん (地域の方)

革化屋さん - 靴づくりについて (高3側田が)

たった かなり詳しく描いて説明してくる

「ケツパチ、ハチマキの境目や、や、こ、中丸

→ 「A - 30分ほどあわ - 」とわらうと聞く

2025.2の制作展に向け、いろんな人に作り方をまか

実際に制作をして持っていくと、
実物を見ながら、さわりながら

「(ハチマキ) について
みんな言う」

「島井くんのはこう違う」

とフィードバックをたくさんもらう

自分も作り方をわかっていない
地域にもう産業が残っていない

島井さんに
できること
がある

靴化自体がおもしろからって
すじ肉の料理に焦点があたってる

土地について
FAB CAPE に
関わってるのは

ほか：まだ続いていく

鳥井：あんなおもしろい場所がい
見つかったらと。(今日の展示場所)

ほか：(すべに) いくつも集大成があるか (まだこれからは
続いていく)

ほか：記録として残したいものは?

その他

☉ (先日行った)

鳥井：小山田先生とのトークで何を話すか、(を考えた
ときの)
プレゼン資料の準備で書いたもの
メモ

↓
事務局トークでそのまま書いた。

ほか：すべにコンテンツがいろいろある

その都度の
{ ウェブサイト
冊子 など }

・インスタグラム (鳥井直輝)

(地域で起こったことは何でも残そう
今のメモとアールとして残すものだから)

「B-LABO」の意義をまとめている (すべと続いていくもの)
今アールせしやアールカイブ 9までいった。
10で卒業したりしたから。

・冊子

・冊子 - そのとき印象的だった写真をまとめている
(記録集) → ほか：これを物理資料として

鳥井：「もう一冊つくりますよ」
もら、ちやうと...
(困るのでは)

ほか：デジタルデータのサイトなので

鳥井：ではJPEGかPDFで。

ほか：冊子のかたちで残してもいい
の撮影など

ほか：自分で持っておけない記録など
京芝にわたしてあいてもいいかなというものを
鳥井：じゃあ自分がおもしろいと思う記録を (お渡し
お渡しします。 (ふ))

ほか：「B-LABO」は屋号?

鳥井：B-LABO (は元は授業の派生で、
勝手に屋号的に使っているだけ。
(何かわかりにくくなるので)
鳥井直輝のプロジェクトの一部 (あくまで)

加藤：計算というより偶発的なことばかり。
あるものをつなげるとかうまいなと思っ
マトリクシシ的なおもしろさ?
ちやう、予期せぬ出会いからのおもしろさ

鳥井：出てきた素材をどう立ってつなげていくか
のシミュレーションを考へる。

加藤：いろいろ手数をやったうえで、いつか、たまたま
その結果、残す。残す

はか： 大学で学んだ
というより現場で学んだ

島井： 大学には感謝しかない
すごいエピソード - 「大学の移転」
(もも、た)

はか： 乗りこなした

島井： 乗りこなさせられた
「乗りこなした」と言えるようにするには
ここから。

ここに自分か往み始めて変化するものか
あ、たらしいなと思う。

島井さん：

6月に京都に戻ってきた
いきいきセンターにもの資料はすべてある
(物理)

吉田さん： 「このヒアリングの意図を考えているか？」
(芸資研の今回の) と言われた。